

司式 ローレンス・スパーリンク宣教師

前 奏

奏楽 大日南苗香姉妹

開 会 招 詞 詩編100編1b-5節

* 賛 美 歌 62 : 1 ひとたびは死にし身も 主によりて今生きぬ。

御栄えの輝きに 罪の雲消えにけり。 昼となく、夜となく、主の愛に守られて、
いつか主に結ばれつ、世にはなき交わりよ。 アーメン

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈禱書3 罪の告白②

主なる神よ、あなたの御前に背きの罪を告白します。わたしは聖なる戒めに従わず、失われた羊のように迷い出て、思いと言葉と行いにおいて罪を犯しました。しなければならないことをせず、してはならないことをして、自分の身に、あなたの怒りと裁きを招きました。憐れみに富んでおられる父よ、罪と過ちを悲しむわたしに憐れみを注いでください。神の独り子である救い主の名によって、わたしを赦してください。聖霊の恵みによって、わたしを新しく生まれ変わらせてください。願わくは今から後、み栄えのために生きる者とならせてください。

主イエス・キリストの御名によって。アーメン。 (詩編32、イザヤ53、ローマ7)

罪の赦しの宣言 詩編103編より

十 戒 祈禱書4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
5. あなたの父と母を敬え。
6. あなたは殺してはならない。
7. あなたは姦淫してはならない。
8. あなたは盗んではならない。
9. あなたは隣人について偽証してはならない。
10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。

(出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 62 : 2 主の受けぬ試みも、主の知らぬ悲しみも、

現世にあらじかし、いずこにも御後見ゆ。 昼となく、夜となく、

主の愛に守られて、いつか主に結ばれつ、世にはなき交わりよ。 アーメン

しじゆんせつ
公 同 の 祈 禱 四 句 節 (レント) の 始 ま り の 祈 り

いつく ぶか しゆ ちち かみさま ひと ご すくいぬし よ う さだ みち
慈しみ深い主イエス・キリストの父なる神様、独り子を救い主として世に生まれさせ、定まった道を
あゆ つみ ゆる あたら いのち こ とお そなえ おお しゆ
歩ませ、罪の赦しと新しい命を みのわざを通して備えてくださいました。このような大いなる主の
いつくしみ かんじや じゆうじか まえ ととき おも てし
慈愛を感謝いたします。十字架を前にしておられる時、イエス様が、苦しい思いにもかかわらず、弟子
たちを訓練し続け、不幸な者を顧み、世の光となってくださったことを かんじや つみ あがな
犠牲を捧げてくださる主の固い決心を覚えて、十字架への道を主と共に進み、罪を悔い改める日々を歩
ぎせい ささ しゆ かた けっしん おぼ じゆうじか みち しゆ とも すす つみ く あらた ひ び あゆ
ませてください。

献 金 (黒) 教会活動 (赤) 思想信教の自由を覚えて 70

今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ。 アーメン

聖 書 朗 読 ルカ福音書18章36-43節 (新約聖書145頁)

説 教・ 祈 禱 「黙ってられない」 スパーリンク宣教師

- * 賛 美 歌 6 2 : 3 **昼となく、夜となく、主はともにましますば、
癒されぬ病なく、幸ならぬ禍もなし。昼となく、夜となく、主の愛に守られて、
いつか主に結ばれつ、世にはなき交わりよ。 アーメン**

- * 主 の 祈 り 祈 禱 書 1

てん われ ちち
天にまします我らの父よ
ねが み な
願わくは御名をあがめさせたまえ
みくに き みこころ てん ち
御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ
われ にちよう かつて きょう あた
我らの日用の糧を 今日も与えたまえ
われ つみ おか もの われ ゆる われ つみ ゆる
我らに罪を犯す者を我らが許すごとく 我らの罪をも許したまえ
われ こころ あ あく すく だ
我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ
くに ちから さか かぎ なんじ
国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

- * 頌 栄 66世をこぞりて

世をこぞりてほめたたえよ み栄え尽きせぬあまつ神を。 アーメン

- * 祝 禱
後 奏 (黙 禱)

報 告

門脇陽子長老

説教題：黙ってられない

説教者：ローレンス・スパーリンク（キリスト改革派日本伝道会宣教師）

参 照： ハイデルベルク信仰問答 問 Q. & A. 56、60、117

2021年2月14日

ルカによる福音書18章35-43節（新共同訳聖書、新約聖書145頁）

イエスがエリコに近づかれたとき、ある盲人が道端に座って物乞いをしていた。群衆が通って行くのを耳にして、「これは、いったい何事ですか」と尋ねた。「ナザレのイエスのお通りだ」と知らせると、彼は、「ダビデの子イエスよ、わたしを憐れんでください」と叫んだ。先に行く人々が叱りつけて黙らせようとしたが、ますます、「ダビデの子よ、わたしを憐れんでください」と叫び続けた。イエスは立ち止まって、盲人をそばに連れて来るように命じられた。彼が近づくと、イエスはお尋ねになった。「何をしてほしいのか。」盲人は、「主よ、目が見えるようになりたいのです」と言った。そこで、イエスは言われた。「見えるようになれ。あなたの信仰があなたを救った。」盲人はたちまち見えるようになり、神をほめたたえながら、イエスに従った。これを見た民衆は、こぞって神を賛美した。

（以上は神様のみことばです。主に感謝します！）

説教の中心的主張点：批判の声が賛美の声に変わっていくことを期待して、福音を伝え続こう。

序説： 聖書の映画化から受けた刺激（*The Chosen*, season 1）

先日、FBを通して入手した情報があって、時間もありませんでしたので、福音書を映画化するビデオ、「*The Chosen*」、第1話から第8話まで、つまり、シーズン1を一気に見てみました。聖書をこのように絵でとか、漫画でとか、また動画で描写することについて、いろいろな議論が確かにあります。危険性もあります。頭に入ってくる印象やイメージに迫力があるほど、聖書を実際に読むときに浮かんでくるものが前提となり、場合によって邪魔となることがあります。これがあるから、聖書に実際に見るべき内容、聞くべき主の御心を邪魔するわけです。特に映画化すると、どうしても原文にない場面や登場人物がいて、ある類の作り話になります。要注意です！

もう一つのもう少し健全なものがありますが、それは去年登場した「聞くドラマ聖書」です。聖書全体を、少しBGMを入れて、プロの方が朗読した、録音聖書です。ぜひ聞いてみていただきたいので、URLを紹介させていただきたいと思います。

<<https://bible.prsi.org/ja/Player>>です。

でもね、*The Chosen* は本当によくできています。これの企画者や役者は皆、まともな熱心なクリスチャンですから、これを通してイエス様をこのメディアの時代の私たちにぜひ紹介したいと願っている人たちばかりです。見ることはYouTubeで、ただでできます。余計な話、すみませんでした。

1、聖書に預かる有り様は幾つかある。

イ、読み聞かせたり、黙読したり、朗読劇にしたり。

ロ、断層を探る。表面も面白いが、驚くべき深さがある。だって、「神の御言葉である！」

ハ、五感と想像力を働かせる。

ニ、何れにしても、聖霊に助けていただき、御言葉として理解することを目指す。

これを含みまして、聖書に預かる有り様、方法が実際に複数あるとわかります。

一番普通なのは読み聞かせ、あるいは、黙読です。場合によっては朗読劇もできます。私は子供の頃から、子供に適した聖書物語の本をよく母に読んでいただきました。絵もたくさん入っていましたね。

あるいは、毎晩の夕食後、テーブルを囲んだまま、父が大きな聖書を手に取って、創世記から黙示録まで、一回一章ずつ読んでくれました。csにも通うので、聖書の有名な物語を教えてもらって、演劇される場面もありました。上福岡教会の朝の礼拝で朗読劇を一度、サムエル記の下、2章に挑戦したことがあります。そこに4つの「声」が登場するので、劇は4人でできました。

これはいいですが、どうして聖書を通読することが私たちにこんなに難しいことなのでしょう。それは聖書に奥深さがあまりにもあるからではないのでしょうか。表面だけでもとても面白いところがたくさんありますが、探るべき深いところもあります。「神の御言葉」だからこそ、深さがあることは当たり前なことでしょう。

さらに、聖書を読むときに、五感を使って、想像力を働かさなければなりません。今読んだ出来事 of 環境がどうだったのか。そこでどんな匂いを嗅ぐのか。喜び、痛みがあったのか。あまりにも興味深いところが多いので、ついに大海に飛び込むような気分になるかもしれません。

でも、結果的に、聖書の著者を導いた聖霊なる神様の啓明と導きを求めることになります。これがなければ、与えられた文書を神の御言葉として理解し、受け入れることができないからです。

2、この箇所を2回目説教する理由：その深みを分かち合う。

イ、先日開かれた宣教師の修養会で違う角度から見る機会が与えられた。

ロ、聖書釈義学を思いながら、まず、素直に言葉を目に、耳にする。

a. 福音書なら必ずイエス様に会おう。

b. 記録されている出来事のインパクトと反応に感動する。

c. 救い主に会おう喜びを知る。

ハ、御言葉の趣旨を思い、やはり、このお方が本当の救い主であると信じる。

ニ、心に染み込むようにゆっくりと瞑想する。

さて、今日の聖句ですが、今度の説教はこの箇所を扱うことが2回目です。どうして再び取り上げたかったかという、今回は、さらにある側面とその深さをぜひ一緒に探りたいからです。また、聖書の読み方について学びたいです。

こうしようと思ったのは、先日開かれた宣教師たちの修養会が切っ掛けでした。その時、今までと違う角度から見ることができました。聖書の読み方の別の方法に紹介があったわけ。組織的なアプローチを使って、より深い意味を理解して、心に語りかけてくださる主のみ声に聞かせていただく一つの方法です。これに時間がかかり、努力が必要です。忙しすぎる私たちであり、こんなに時間の余裕がないかもしれませんが、修養会だからこそ、ゆっくりと御言葉と付き合うチャンスだったのです。

(「聖書発見学習」、別名、「聖書を読む会」も一つの方法ですね。これは単独によっても、複数の仲間によってもできる聖書の学び方ですね。)

ではどこからスタートするかと言いますと、まず、祈って、箇所をちゃんと読みます。読んで、読み返す。そこに書いてあることにちゃんと集中する。またさらに読み返す。ついに暗唱すると一番いいですね！あるいは、ボールペンを握ってその箇所を自筆する。

聖書釈義の原則を思い出しながら、素直に書いてあるまを目にして耳にする、十分な時間を使って。これは福音書の箇所だから、そこに必ずイエス様が登場します。どんな姿なのかを想像してみます。何をしておられるかを確認します。周りの人たちはどう反応しているのでしょうか。

周りの人たちの中に、怒ってイエス様に対する殺意はないのでしょうか。あるいは、イエス様の教えをぜひとも聞き入りたいと願っている人いないのでしょうか。お祭り雰囲気なののでしょうか。奇跡を目撃したがる人いないのでしょうか。心からイエス様の助け、癒しを切望している人いないのでしょうか。

エリコの盲人はイエス様に会うことが許されて、どんなに喜んだことでしょうか。そのみ声を耳にするとどんなに素晴らしかったのでしょうか。触れていただくって、すごかったでしょう。そして結果的に、目の不自由が癒され、見えるようにしていただくって、感激のあまりだったに違いありません。これを全部想像してみれば、時間がかかります、ね！

この聖書が書かれた目的が何だったのかを思い起こすことも釈義の大原則の一つです。これを書きまとめたルカはその福音書の初めにちゃんと教えてくれました。1章4節を読みます：「お受けになった教えが確実なものであることを、よく分かっていただきたいのであります。」ヨハネによる福音書がもう少し詳しく福音書の著者たちの目的について述べています。ヨハネ伝20章31節：「これらのことが書かれたのは、あなたがたが、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、また、信じてイエスの名により命を受けるためである。」

これですから、次のように自問します。今の聖書箇所は、イエス様が誠に私の救い主であること、あなたの救い主であることをどのように示しているのか。これが一番大事な問いです。

ゆっくりと思い巡らします、心に染み込むように。そうすれば、もしかすると、あなたもイエス様に近づきたい思いが力強く生まれ、「ダビデの子、主イエス様、私を憐れんでください！」と叫び出すようになるかもしれません。「このままのこの私を！」と。そのようなお気持ちでしたら、どうぞ遠慮なく声を出しても大丈夫ですよ！ 恥ずかしいことはありません。当然のことです！

3、さらに深く入っていきましょう。

イ、当然ながら忘れてしまいがちな解釈の原則がある。

- ・ コンテキスト・単語と文法・著者の目的、など
- ・ 聖書によって聖書を解き明かす（歴史の書、預言者の書、並行箇所）

ロ、当時の人々を思うとともに、自分自身をその場面に刺し入れてみる。

ハ、テーマに従って他の聖書箇所を参照にしてみる。

さらに深く入ってみましょう。

当然ながら忘れてしまいがちな解釈の原則があります。第一にまず箇所のコンテキストを確認することです。イエス様はここでエルサレムへの最後の旅をしています。最近起こった出来事を全部話す時間はありませんが、直前にあるのは、イエス様がこれからエルサレムで起こるはずの十字架の死を弟子たちに予告しています。しかし、これを理解する能力が彼らにありません。はっきりとおっしゃるのですが、彼らはまるで耳が効かない感じです。言い換えれば、彼らには目の不自由があります。

それから、一つ一つの単語の意味、文法的流れを確認します。「盲目ともの乞い」は哀れな存在です。「ダビデの子」は、これはユダヤ人の王様、約束された救い主を指す表現です。「憐れんでください」とは、困り果てている、哀れな状態にいる者を具体的に助けることです。

再び、著者ルカの目的を思い起こすと、なるほどという気がするでしょう。ここに、救われる必要のある者が救い主に出会うわけです。

さらに、聖書全体によって聖書を釈義することも大切な原則です。歴史の中に、預言者の中に、盲目が癒されることがあるでしょうか。あるのですね。約束された救い主の典型的な行動です。イザヤ書35章にこう書いてあります。「心おののく人々に言え。『雄々しくあれ、恐れるな。見よ、あなたたちの神を。敵を打ち、悪に報いる神が来られる。神は来て、あなたたちを救われる。』そのとき、見えない人の目が開き／聞こえない人の耳が開く。そのとき／歩けなかった人が鹿のように躍り上がる。口の利けなかった人が喜び歌う。」（イザヤ35章4-6節）。

また、福音書ですから、並行の箇所があれば、他の情報はないでしょうか。調べてみると、やはり、マタイに20章とマルコ10章に同じ出来事が記録されています。マタイによると、実は物乞いしている盲人は二人いたことがわかります。そして彼らを癒す時に、イエス様が手を出して彼らの目に触れたとあります。マルコはさらに、一人の盲人の名前を紹介してくれます。バルトマイだそうです。そして、彼がイエス様と話す時に、イエス様を「ラボニ」（「私の先生」）と呼んだそうです。

文法と参照となる聖書箇所の他に、当時の社会的情報も大切です。例えば、目の不自由、耳の不自由、足なえなど、このような重い障害を持つ人を見下げ、「大きな罪を犯したから」と、偏見で見えています。物乞いに施しをして、自分が良いものだと思ってしまうのですが、「ダビデの子、イエス様！」と叫び出すと、「うるさい。黙れ！」と叱るのです。

さあ、一つのチャレンジを出します。今度は自分自身をその場面の登場人物であることを想像してご覧ください。あなたは誰でしょうか。群衆の一人ですか。弟子の一人ですか。ローマ兵の警官ですか。

盲人ですか。パリサイ派のユダヤ人ですか。そのどれかであるかのようによく想像してみてください。どんな思い、どんな気持ちになっているのでしょうか。盲人になってみましょう。「邪魔者だ。黙れ！」と叱られたらどうしますか。恥ずかしくて退くでしょうか。それとも？どうしてもこの機会をつかむのだと思い切ってイエス様の足元に進みますか。イエス様が迎え入れてくださいますよ！

「黙っていなさい」という言葉が面白いです。聖書でそう言われるのはこの盲人だけではありません。逮捕される弟子達、ペテロとヨハネもそう言われたし、使徒パウロもそうでした。しかし、彼らは黙っておられないと答えます。イエス様の素晴らしさのあまり、証しして、一人でも多くの人にこの方が救い主であることをなんとかして知ってほしいのです。また、イエス様がルカ伝の19章でエルサレムに登場すると、小さい子供を含めて、群衆が、「ホサナ！ダビデの子にホサナ。主の御名によって来られる方に！」との叫び声に対して、「黙ってもらいなさい」とユダヤ人の指導者たちがイエス様に求めます。けれども、それは無理だとイエス様が答えます。「言うておくが、もしこの人たちが黙れば、石が叫びだす。」（ルカ伝19章40節）。

4、聖書の豊かさがあり、受け止めるべき「真珠」が多くある。

イ、戒め、教訓、知識、慰めと励まし、チャレンジ

ロ、近づいてきた神の国のゆえに悔い改めて信じ、弟子となって、福音を語り伝えていく。

この聖書箇所に残れば留まるほど、その豊かさに気がつくでしょう。そこで高価な真珠を見つけ出すことがあるでしょう。

- ・戒めがある：注意深く、イエス様の声に聞きなさい。
- ・教訓がある：近くにおられるうちにチャンスをつかめ。
- ・情報がある：イエス様こそが約束された救い主だ。
- ・慰め、励ましがある：人につまらないと思われても、主は受け入れて、癒してくださる。
- ・チャレンジがある：このお方を信じて従っていくか。

主イエス様はここで何をしておられるのか、私たちに知らせてくださいました。「時が満ちて、神の国が近づいた。悔い改めて、福音を信じなさい。」と伝えてくださいました。今がそのみ声に聞き従い、その弟子となることを決心する時です。イエス様に従って、他の方々にも伝え、福音を告げ広める時です。すべての時代のすべての人が待ち望んでいる救い主はこのお方です。ついに、ここにおいでになってくださいました。ただいま、ここに来ておられます。今、見る目があれば、お会いできます！

決論： 群衆はさげすまれた盲人を叱るが、十字架に向かう救い主に憐れみを思い切ってお願いと救われました。これを見て、「さあ、私もこのお方に癒していただく、従っていこう！」との思いに導かれます。人生の再出発がここから始まります。「イエスが深く憐れんで、その目に触れられると、盲人たちはすぐ見えるようになり、イエスに従った。」（マタイによる福音書20章34節）あなたはどうかされるでしょうか。願わくは、私のこの身にも、また、あなたにも同じ信仰が生まれますように。アーメン。